

## 井の頭自然文化園の未来を想う会 「ふれて見る彫刻鑑賞ツアー」報告書

### 〈実施要領〉

- ◎名 称：ふれて見る彫刻鑑賞ツアー
- ◎時 期：2024年10月26日（土）13時から15時
- ◎場 所：井の頭自然文化園彫刻館2階および彫刻園
- ◎参 加：公募
- ◎鑑賞作品：彫刻園内の「師範代」「拳闘」「源泉」の3作品

### 〈実施体制〉

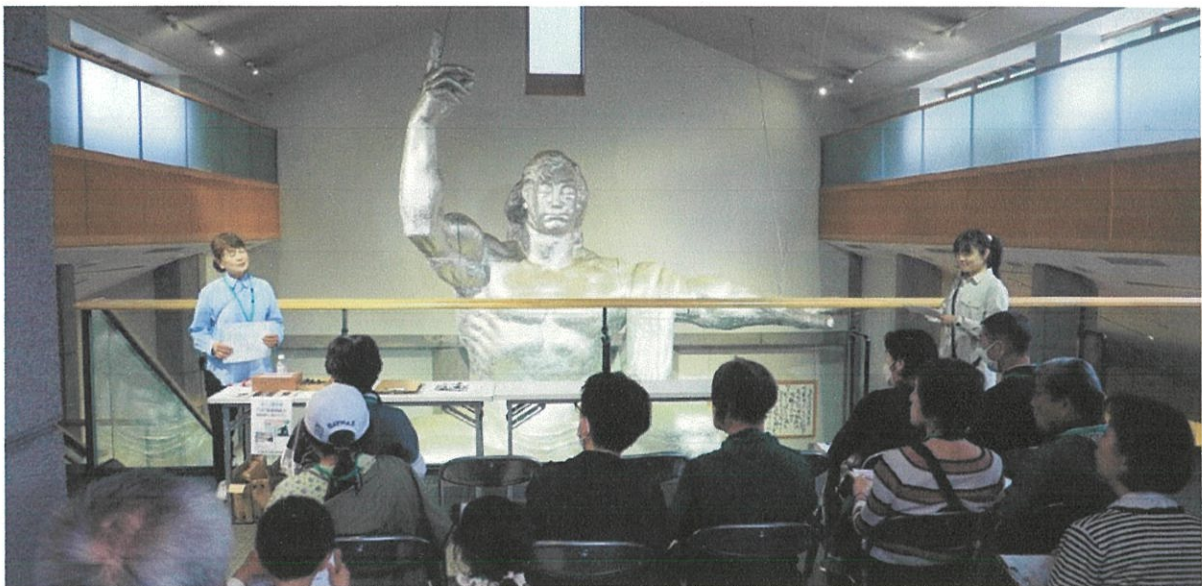
- ◎主 催：井の頭自然文化園の未来を想う会
- ◎協 力：井の頭自然文化園
- ◎作品解説：土方浦歌（北村西望研究者）
- ◎司会進行：1人
- ◎スタッフ：受付（2人）、司会進行（1人）、記録撮影（2人）、案内（2人）以上会員にて運営

### 〈使用備品〉

- ◎会場案内および作品への案内表示、テーブル、椅子、携帯マイク、スピーカー、参加賞ホルダー記入ボード、筆記具、アンケート用紙

### 〈実施結果〉

- ◎一般参加：20人+子供2人



### 〈企画意図〉

井の頭自然文化園内に林立している彫刻作品を身近に感じ、誰でもが楽しめる新たな鑑賞体験として“ふれて見る彫刻鑑賞ツアー”を企画し開催した。

### 〈開催趣旨〉

＝ツアーのテーマ

- ◎視覚だけの鑑賞に加え作品にふれることで拓かれる感覚によって彫刻作品の新たな魅力を見つける。
- ◎北村西望作品の躍動的で詩的で感情を強調する表現形式を学び体感する。
- ◎「彫刻は人である」ことから作品に関連する物語やエピソードを学び、その背後にある感情や動機について感じ取り、その人への共感を醸成する。
- ◎ただ鑑賞するだけではない、みんなで話し合う、新たな彫刻鑑賞を体験する。
- ◎鑑賞者同士の対話から、気づかなかった新たな共感や発見を獲得する。

### 〈鑑賞方法〉

＝“屋外彫刻にふれて見よう”+“彫刻に向かい合おう”

- ◎作品解説と物語から作者が表現するテーマ、意図、感情を理解する。
- ◎さらにふれて見ることで作者の視点を追体験してみる。
- ◎作品を人として捉え向き合うことで、今度は自由に自分なりの...
  - ～その人のプロフィールを作成してみる
  - ～その人がなにをしようとしているのか
  - ～その人と共感できること、一緒にできることはなにか
  - 等々...

### 〈ワークショップ〉

＝オリジナルの作品像と作品への愛着へ

- ◎鑑賞者が得た各作品への自由な共感を付箋に書き込み共有する。
- ◎鑑賞者同士の対話や意見交換とインタビュー

### 〈今回の鑑賞作品〉



師範代



拳闘



源泉

## 〈ツアープログラム〉

### ◎鑑賞の趣旨と注意事項



◀彫刻を遠くから見るだけでなく、少しだけ距離を近づけて北村西望の彫刻の語りかけるものを感じてほしい

◀公園内の彫刻は強度などは考えて作られていないため、美術品を触っているということを意識してください

### ◎作品紹介

▶これらの作品は人物像をモデルにして、その人の社会的属性を彫刻のテーマに取り込んでいます。どんな状態でどんなポーズをしているのかを理解しましょう

師範代...師範の瞳孔と目線の位置をよく見てみよう

拳 闘...1920～30年代に作られた人体彫刻

源 泉...なににさわっているのか想像してみましょう





彫刻に手でふれて、  
この世界の一部を感じとる。

Le mani toccano il mondo

# 手でふれてみる世界

監督・撮影：岡野晃子 編集：早川 嗣（ポレポレタイムス社） 字幕翻訳：浅岡直芽 音楽：阿部海太郎、仲野麻紀/ヤン・ピタール

## 〈開催趣旨〉

映画「手でふれてみる世界」は、イタリア・マルケ州アンコーナにあるオメロ触覚美術館の創設者で全盲のアルド・グラッシーニと妻のダニエラ・ボッテゴニを中心に展開するドキュメンタリー映画です。「視覚優位」の鑑賞から解放され、彫刻と「ふれあう」「語りあう」ことで、訪れるすべての人に開かれた美術館がそこにあります。ここでは、ふれながらそして常に会話をしながら彫刻を鑑賞している人々が、生き生きと映し出されています。

美しいものを手でふれて感じることで、触覚と視覚が重なることで豊かな感性が育つこと、誰もがこの経験を語り他の人と共有することで美とより豊かな関係が生まれることを、この映画は伝えています。そして「美術館とは何か」を静かに語りかけてきます。

映画上映に引き続き行われるワークショップでは、彫刻にふれることで自分の感性を刺激することはもちろん、様々な立場の人の鑑賞方法を理解することに結びつきます。彫刻作品にふれることは自分の感性を刺激することはもちろん、様々な立場の人の鑑賞方法を理解することに結びつくのです。

## 〈ワークショップ〉

- ◎鑑賞者が得た作品への自由な共感を付箋に書き込んでみる
- ◎各自が感想を発表することで鑑賞者同士が体験を共有する
- ◎お互いに対話や意見を交換することで鑑賞方法を理解する
- ◎講師の作品解説により作品への想いを深める

## ◎作品鑑賞



### 〈師範代〉

◀この人は柔道の先生で競技の判定をするので見ているのではないのでしょうか。骨格や筋肉を実際以上に強調して作っており、“動”に向かう前の“静”の動きを一瞬のふりに込めています



### 〈拳闘〉

◀1984年のロス五輪の会場に展示するために作られました。1920年代に活躍した佐藤東洋選手がモデルです。鼻の骨が折れているようなのがボクサーらしい。どれだけパンチが強いのか想像してみよう



### 〈源泉〉

◀この人はなににさわっているのかを想像してもらえるポーズです。これは北村西望が展覧会の審査員になって初の出品作です。さわっている泉は着想の泉を想定しているのかもしれませんが

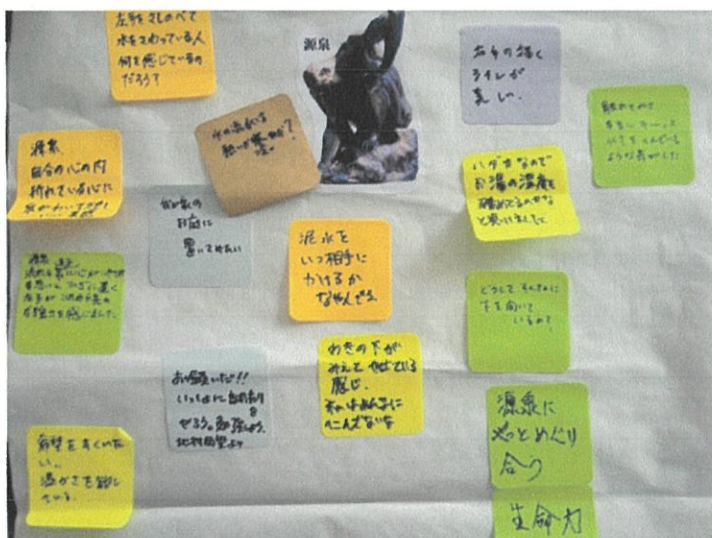
## ◎ワークショップ&対話

▶北村西望はこれらの作品で日本人がどうやって西洋人に勝てるかを考え、日本男性の健康美を運動選手の筋肉を強調した作品により表現しました

▶それぞれ、彫刻の人物と一緒にどんなことをしたいか、

想像力を膨らませて付箋に書きました  
書いた付箋を見つ読み上げつつ、さまざまな発想を前に、和気あいあいと話がはずみました

彫刻の人物の状況や気持ちに近づけたでしょうか？



- ◀「ひとりで見る時気がつかない事や感じがわかった」
  - ◀「ひとつの作品をゆっくりいろんなことを考えたり感じたりしながら鑑賞する楽しさを知りました」
  - ◀「五感を使っのツアー、彫刻園が身近になりました」
- という反応がありました

<参照：「ふれて見る彫刻鑑賞ツアー」の活動が「SEYBO Peace Gallery」に掲載されました>

<https://www.seybo.jp/>

以上

2024/11/11 文責・井の頭自然文化園の未来を想う会